

2018年11月7日
第110号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

10～11月は、「全労連憲法総行動月間」で、10月26日～11月3日は「3000万人署名推進強化期間」です。自治労連と日本医労連の取り組みを紹介します。

●自治労連本部

「3000万人署名推進強化期間」に署名宣伝行動

「9条守れ」「核兵器は廃絶を」の訴えに 世論の関心の高まり示す反応も多数

10月29日、自治労連本部は巣鴨地蔵通り商店街で署名宣伝行動を行いました。この日は全労連が呼びかける「3000万人署名推進強化期間」（10/26～11/3）と「国連・軍縮週間」（10/24～30）の重なる時期で、自治労連本部は「安倍9条改憲NO 3000万人署名」、「ヒバクシャ国際署名」にとりくみ、「3000万人署名ハガキリーフ」を配布しました。買い物客や観光客でにぎわう商店街での宣伝には本部役職員10人が参加。1時間で3000万人署名24筆、ヒバクシャ国際署名16筆が寄せられました。

オーストラリア在住で、法事で帰国したという男性は、「ラジオで安倍首相が今国会で改憲をめざしていることを知っている」と署名に応じるなど、臨時国会が始まったこともあり、安倍首相がねらう改憲への反対の訴えに関心を寄せる人も多く見られました。中には、自ら手を伸ばして「3000万人署名ハガキリーフ」を受け取り、じっと読んでいる人や、署名に協力した後に「ごくろうさま」、「がんばって」と声をかけていく人も多く見られました。



第1回自治労連憲法闘争本部会議(兼拡大全国代表者会議)を開催

「3000万人署名」1人10筆達成しよう

10月26日、第1回憲法闘争本部会議を兼ねた第1回拡大全国代表者会議が自治労連会館で開催されました。学習講演に続き、全国代表者会議の方針提案と討論が行われました。

猿橋委員長は「最近『安倍政権の終わりの始まり』とも言われるが、私たち労働者・国民の運動なしに勝手に退陣することはない。いまの局面を切り開いてきた共同行動、憲法闘争をおおいにすすめ、市民と野党の共闘を広げてこそ安倍内閣を退陣に追い詰めることができる」と述べて、「秋季年末闘争でも憲法を縦横無尽に語って、憲法を生かし住民の暮らしを守ることと一体で、秋季年末闘争での要求実現のとりくみをひろげよう」と呼びかけました。

方針では、「安倍9条改憲NO」3000万人署名のとりくみについては「組合員1人あたり10筆の目標達成」をめざすこと、「署名ゼロ職場」をなくして市内世論を広げるとともに、地域での活動を通じてすべての組合員の参加する運動にとりくむことが提案されました。討論では、「この夏以降、3000万人署名のとりくみが停滞ぎみになっている。リスタート集会などのとりくみが大切」「少人数でも学習会を大切にし

て」「参院選で安倍内閣の退陣をせまる」などの発言が出され、安倍首相が、この3年間の自民党総裁任期中の9条改憲について改めて言及していることから、来春の統一地方選挙、そして夏の参議院選挙で安倍内閣を退陣に追い込むために奮闘していくことを意思統一しました。

●愛知県医労連

「改憲させないぞ!」3000万人署名達成めざし奮闘広がる 青年先頭に元気に宣伝



愛知県医労連は、3000万人署名のとりくみを広げようと、新しく県医労連専従となった矢野彩子書記次長を中心に宣伝にとりくむとともに、新たに「憲法・平和ニュース」発行を始めるなど、全県を励ましています。

10月19日に名古屋駅で「安倍9条改憲NO! あいち市民アクション」でとりくんだ宣伝には、医労連から10人が参加するなど、40人での行動となりました。

名南会労組の青年2人がマイクをにぎり、「辺野古の警備に1日1800万円も税金が使われてる。こんなことより医療や介護にお金をかけてほしい」「皆が望んでないことを、どんどん勝手にすすめてい

る。何もしないと賛成になってしまう。反対の意思を表明してほしい」と元気に訴えました。同時刻、金山駅前でも約130名の参加でキャンドル宣伝が行われました。

愛知県医労連は集約をつよめ、この1カ月で3千筆上積みしています。11月3日の1万人アクションや、10日のドクターナース介護ウェブなど4か所での宣伝を計画しています。

●全日赤

「なぜ政治的課題にも取り組むのか」ニュースで特集

全日赤は、「組合として憲法や政治課題にとりくむべきでないのでは」との意見もあり、その疑問に答えようと、8月から「全日赤平和対策ニュース」で連載で特集しています（現在8回）。

第2回では「平和でこそ良い医療・良い看護、労働条件向上 労働組合が政治課題に取り組む理由」のテーマでした。二交替制の導入へとつながった変形労働制は、法律として国会で決められたものであり、「政治闘争抜きでは、労働条件の改善にはつながりません」としています。

第7回では「医療従事者が動員される!？」のテーマで、日赤の職員やその他の医療従事者が、戦争に巻き込まれる危険性を紹介しています。